

看護学教育評価  
評価報告書

受審校名 公立大学法人青森県立保健大学健康科学部看護学科

(評価実施年度) 2020年度

(作成日) 2021 年 3 月 5 日

一般財団法人 日本看護学教育評価機構

## I. 総合判定の結果

( 適合                      不適合                      保留                      )

## II. 総評

評価基準1～4の評価観点から詳細に検討した結果、1～4すべてにおいて、評価基準に適合しており、総合評価は「適合」と判断しました。

評価基準1の教育理念・教育目標に基づく教育課程の枠組みでは、貴学の大学・学部の教育理念・使命、教育目標は、地域特性や公立大学としての設置の趣旨を基盤とし、地域の保健医療のニーズを考慮した看護学科としての教育を実施していることを確認しました。評価基準2の教育課程における教育・学習活動について、事務局との連携により時間割を調整するなどして、実習を担当する教員が実習指導に専念できる体制が整えられており、きめ細かな教育活動が展開されていました。また、教員の能力を高めるための種々の取り組みとして、研修、FD マニュアルやマップなどの整備がされています。そしてユニフィケーションの視点から教員と臨床看護職の能力向上のために青森県病院局との協定書が交わされており、その支援は組織的になされています。さらにセルフマネジメントノートの活用により、看護技術習得状況が学生と教員で共有され、学生の主体的な学習活動を進めていることは長所であると評価しました。さらに、「VOICE ボックス」で学生からの意見や要望を受け付ける仕組みはありません。評価のフィードバックが講義では学生が最終の成績評価を知る機会があり、演習・実習科目におきましては面談等でなされています。今後は講義科目も含め、学生がフィードバックや疑問を申し立てる機会の仕組みが構築されるとよいと考えます。評価基準3では、教育目標、ディプロマポリシー(DP)の達成を目指して教育課程が編成され、教員に教育内容等の改善を常に求める体制があります。学科運営会議の5分間ゼミは、各領域の教育、研究に関する取り組み状況を共有することができるユニークな取り組みで高く評価できます。また、卒業時の学生満足度調査に加え、卒業後は5年毎に在職調査を実施し、雇用先からの卒業生の評価を定期的に受ける体制があることは評価できます。今後は、中・長期的な観点から、これらの評価結果を教育課程の改善に結び付けるような組織的仕組みについて検討されることが望まれます。

なお、現状の記述は評価基準、項目、観点ごとに根拠資料を示すなどして丁寧になされています。しかしながら、自己点検・評価は基準を満たしていることの確認にとどまり、課題を見出し次の取り組みについての記載は必ずしも十分とは言えない点が惜しまれました。今後は看護学教育の質の改善・向上に向けた自己点検・評価への取り組みを期待します。